

やまなしの福祉

2014.

1

月号
No.315

社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会
甲府市北新1-2-12 TEL:055(254)8610・FAX:055(254)8614

<http://www.y-fukushi.or.jp/>

【特集】 防災意識を高めよう



P2 ▶ “災害にも強いまち”を目指して
西桂町社会福祉協議会

P5 ▶ 釜石の今、そして伝えたいこと
釜石市社会福祉協議会

P6 ▶ 山梨県社会福祉法人経営者協議会による
福島県への介護職員の応援

P9 ▶ 非常時・災害時の必需品を確認しましょう

P10 ▶ 「福祉用具の日」が開催されました

P12 ▶ 介護予防・認知症予防講座『笑いヨガ』

P13 ▶ 第26回全国健康福祉祭こうち大会

P14 ▶ 福祉人材センター情報



釜石市での経験から始まった様々な試み

“災害にも強いまち”

住民とともに作り上げた 『防災福祉マップ』

はだ なおみ
西桂町社会福祉協議会 羽田 尚美さん

■ 震災直後の釜石市での経験

平成23年、東日本大震災直後の5月に約10日間、岩手県釜石市社会福祉協議会の災害ボランティアセンター運営のお手伝いに行くという機会がありました。

現地では支援を求める方々を訪ね、ボランティアが対応できるニーズかを調査する担当に。余震が続くなかでの活動でした。

■ 一人ひとりへのお誘いから始まった 防災福祉マップ作成研修会

釜石市から帰って、まず考えたのは「もし西桂町で災害が起きた時はどうなるんだろう」ということでした。5年前、地域福祉活動の一環で防災の講習を開きましたが、参加者は少なく、地域の災害意識が高いとは言えませんでした。

だからこそ私の釜石市での経験を防災に生かしたいという思いから、県社協に相談しました。そして今年3月16

日に実施されたのが住民の方々を対象とした『防災福祉マップ作成研修会』です。区長、民生委員・児童委員、消防団員、さらには議員の方にも声を掛け、通知は私が一人ひとりに配りました。



■ 地域の方々の協力で 出来上がった防災福祉マップ

その甲斐あって当日は用意した60の席も満員。最初に講習、次の実技では地区ごとに実際の防災状況を地図に落として防災福祉マップを作りました。消防団の方は消火栓、防火水槽の場所を、民生児童委員の方々は、一人暮らしのお年寄りや障害者の情報を、拡大コピーした地図に記していき、バラバラだった情報が一つに集結していきました。東日本大震災で地域の方々の防災意識が高まっていたことが大きかったとは思いますが、5年前の講習会から、こんなに変わるんだと感動しました。

■ 防災福祉マップ作りをきっかけに、 生まれた効果

作成後、「公民館に車椅子を使っている方の避難に備え、スロープを取り付けよう」という意見も出てきました。今まで意識がなかった部分にも目が届くようになり、防災福祉マップ作りを経て各々がステップアップされ、地域の防災力が上がっているのを感じています。半年後の現在、いざという時に地域で支え合うためにも、作ったら終わりではなく、常に情報を最新にしておくことが必要です。

今後は日々の社協の活動で住民同士のコミュニケーションが深まる企画を考え、それを災害時の適切な支援に生かし、全員がしっかりと避難できるようにしたいですね。



災害時に障害者や高齢者などを安全に救援するためには地域住民の協力が必要となります。また、災害時の復旧・復興にはボランティアの力は非常に大きな存在となります。社会福祉協議会では『防災福祉マップ作成研修会』、『災害ボランティアセンター設置運営訓練』等を行い、災害にも強いまちづくりを目指しています。

を目指して

どう活用し、次に引き継ぐか 生きた防災福祉マップへ

かきぞねく 西桂町柿園区 区長 鶴田 長秀さん 写真右
 つる た たけひで
 かつまた かずひろ
 民生委員・児童委員 勝俣 和広さん 写真左

■ マップづくりのはじまり

鶴田…区長就任時の目標として、西桂町の消火栓や避難所などを記載した『防災マップ』を作りたいと発表しました。その時は『独り暮らし、障害者住居マップ』まで作ろうとは考えていませんでしたが、3月の講習会がきっかけとなり、民生児童委員の方々の協力で作ることができました。

勝俣…『独り暮らし、障害者住居マップ』は、独り暮らしのお年寄りや障害者の住居を記載したマップです。そこで、独り暮らしの高齢者の見守り訪問などの活動を一緒にしていた他の民生児童委員の2人と、情報交換しながら一緒にマップを作り上げました。

■ 『防災マップ』 『独り暮らし、障害者住居マップ』 2つのマップの効用

勝俣…今後は防災意識を高めるために防災訓練ではマップを基に実際に即した行動ができるようにしたいですね。

鶴田…両マップには区長以下、各組長の名前が入り、毎年の交代時には作り直さなければいけません。各自が責任を持つ意味であえてそうしました。

勝俣…今、『防災マップ』は消防団員の詰め所、公民館にも貼って、多くの方が見られます。

鶴田…『独り暮らし、障害者住居マップ』は個人名を記載していますので、個人情報保護の観点から封筒に



入れ、組長、消防の一部の方に渡し、災害時に開けてもらうようにしていますが、命に関わる情報ですから、もう少し多くの方々に知っていただき、より生きたマップにしていきたいです。

“想定外が当たり前”が最近の災害なので、その時にどう対応するか、意識の高い状態を維持するのは難しい問題です。今後はマップを引き継ぐと同時に、防災に関する考え方も引き継いでもらえたら嬉しいですね。

釜石市での経験から始まった様々な試み “災害にも強いまち”を目指して

災害ボランティアセンター
地域包括支援センター



新たに取り組む西桂町の防災への試み

■ 役場の協力・理解が得られた、防災訓練

災害時、社協は災害ボランティアセンターの担当となります。そのため町長には「今年、初めての試みとなりますが、災害ボランティアセンターの立ち上げまでを行ってください」と言われました。でも実際の災害ボランティアセンターの動きを確かめなかったこともあり「初めてで失敗するかもしれませんが、立ち上げだけでなく、受付、送り出し、報告といった運営までやらせてください」とお願いして町の防災訓練に社協として参加することになりました。

当然、私一人では災害ボランティアセンターの立ち上げ、運営はできません。また、以前から職員にも、より詳しく災害のことを知って欲しかったこともあり、7月に県社協の協力を得て『災害ボランティアセンター設置運営研修会』を開催しました。

研修会には、職員はもちろん、社協と役場協働で行うには、お互いを知る必要があると考え、役場の防災担当、福祉担当の方にも参加していただきました。訓練当日までは、役場の防災担当の方に助言をいただきながら準備を重ねました。

■ 実際に訓練をしてわかったこと

8月の防災訓練では、役場のタイムスケジュールに組み入れてもらいお互いに情報共有や協力を行いながら訓練を行いました。

訓練は朝8時頃からお昼前までのおよそ3時間でしたが、実際の3日分を短縮して行われました。参加者は消防団員や職員など150名以上。町社協事務局がある「いきいき健康福祉センター」は、福祉避難所の設置運営訓練



も行われていました。社協職員には、ベッドやダンボールを使って仕切りを作る様子なども見学してもらいました。

そして実際に災害ボランティアセンターの訓練を行ったからこそ見えたこともありました。例えば、名札を書く作業も釜石市ではスムーズでしたが、こちらでは敷地が狭くてテーブルが動線の妨げになったり、またボランティアの方々の携帯電話番号の確認や連絡先のリスト化など改善すべき課題となりました。

■ これからへつなげていくための課題

職員同士のみならず、行政とも日頃のコミュニケーションを図り、気持ちよく仕事をして、それを住民の方々へ反映させることが災害時のスムーズな避難や救援につながります。いざ災害が起こったら、被災者は、『社協も役場も関係なく助けて欲しい』から行政との協働は非常に大切だと思います。今後も訓練や防災活動を繰り返し、問題を改善し、災害時に備えることが大切だと思っています。

また、住民の方々をいかに巻き込むかも大きな課題です。来年の訓練ではボランティア役で参加してもらうなど、防災に対する意識を持ち続けてもらうことを考えながら取り組んでいこうと思います。

釜石の今、そして伝えたいこと



釜石市社会福祉協議会
災害時要援護者訪問調査員 矢浦 一衛 さん

東日本大震災は平成23年3月11日に発生し甚大な被害を受けました。この間、山梨県の皆さんから義援金や支援物資の提供、被災地でのボランティア活動をしていただき、被災地を支援していただいております。まずもって、このことに対し心から厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

▶ 釜石市社協(センター)の取り組み

発災当初は災害ボランティアセンターとして被災者の支援を中心に様々な活動を行ってきました。

現在の主な取り組みは、三本の柱を掲げて取り組んでおります。

● ボランティアセンター事業

震災直後から、被災された市民の方からボランティア依頼を受け、県内外から6万人以上のボランティアさんの受け入れや調整を実施してきました。現在のボランティアの活動は金・土・日の週三日間で行っております。

● 生活支援相談員事業

生活支援相談員は被災者に寄り添って、見守り活動や相談活動、サービス利用の橋渡しなど被災者の生活支援を行っております。

● 地域福祉コミュニティ復興事業

地域語りの日や街づくり交流事業、ファームでの交流事業、サロン活動事業など、震災によって希薄になった地域コミュニティの再生・復興を促し、被災者の孤独や孤立の防止など、癒しの効果やストレスの解消に役立つことを目的に実施しております。

▶ 住民の方々の生活、特に子どもたちの生活

被災地では、防潮堤や道路工事等には手を付け少しずつ復興の兆しは見えてきておりますが、建設用地の確保等で復興住宅や個人の住宅建設に遅れを感じております。

また、仮設住宅に入居している子どもたちは学習する環境が悪いこともあり、学力の低下が懸念されております。これらの問題を少しでも緩和す

るために、ボランティアによる講師先生を募集し大学生とともに支援しております。

▶ 住民の方々の意識の変化、特に防災意識の変化

当市では、群馬大学の片田敏孝先生が10年前から小学生を対象に防災教育を行ってきました。そのようなこともあり、学校の管理下にあった生徒は全員助かっておりますが、大人の人達の中には自分自身は大丈夫だとして避難しないで自宅で亡くなった方も多くおりました。しかし、東日本大震災の被災の状況が報道等で大きく取り上げられたことや、防災に関する講演会が開かれるなど防災意識も大きく変わってきております。

▶ 今、必要な支援(県外へのメッセージ)

震災から2年9か月が経過したこともあり、ガレキ処理等のハード面の要請は減少していますが、仮設生活が長くなることにより別な問題も出てきております。そのため、NPOや宗教関係者等によるサロン活動が頻繁に行われておりますし、ボランティアによる炊き出しの支援も行われております。このような温かい支援は被災者にとってありがたいことでもあります。よく、マスコミ等では被災地の報道も少なくなったこともあり風化されていると報じられております。

釜石市は今までも幾多の津波災害や艦砲射撃にあい、町中が壊滅状態になっても立ち上がり復興してきました。今回も少し時間を要しますが必ず復興していきます。

それまで被災地を忘れないで支援していただきたい。復興した際は、再度釜石を訪問していただきたいと思っております。



2013年3月
ガレキの撤去作業



2013年6月
写真洗浄作業



2013年7月
畑のガレキの撤去作業



2013年9月
海岸の清掃作業

山梨県社会福祉法人経営者協議会による

福島県への介護職員の応援

福島県南相馬市は、平成23年9月末に緊急時避難準備区域が解除されたものの、高齢者層の帰還はあっても若年層の人口流出が進んでいます。特別養護老人ホームでは求人募集に対して応募者がいないなど介護職員の確保が極めて困難な状況で、利用者数を制限せざるを得ない状態にもなっています。

こうした状況を踏まえ、全国社会福祉法人経営者協議会は、安定的なサービス提供の確保を目的とし、継続的な介護職員の応援を平成24年6月から開始し、27年5月までの3年間行います。

山梨県社会福祉法人経営者協議会の取り組みとしては、平成25年7月4日～10月4日までの4か月間に、13法人14名の介護職員が南相馬市にある特別養護老人ホーム「福寿園」へ介護応援に行きました。

活動に参加した3名の方々の声を紹介します。



社会人として成長できた、貴重な人生経験でした。

特別養護老人ホーム みのぶ荘（南巨摩郡身延町）

ふじ しま ゆう すけ
藤嶋 優輔さん

応援期間／平成25年7月4日～19日

目の当たりにした福島の現状

小さい頃、新潟中越や能登半島の災害時に活躍する自衛隊の姿に感動し、災害が起きた時、人を助けたいという思いが強くあり、介護員という形ですが手助けができると思い立候補しました。

現地では施設長さんが休日に原発20km圏内の浪江町へ連れて行ってくれました。原発近くの小学校の体育館は卒業式の準備のまま泥だらけで、時計は被災時から止まった状態。あらためて災害のひどさを感じました。教室の黒板には自衛隊員が残した、災害にあわれた方へのメッセージがありました。同じ日本なのかとショックで怖かったです。実は職場での報告会で使おうと思い、携帯で小学校など災害の爪跡の写真も撮りましたが、帰ってきて徐々に亡くなられた方に申し訳ない気持ちが強くなり、報告会前に消してしまいました。

報告会での問いかけ

出発前から、帰る家のない利用者さんに帰宅願望があったら、どんな声掛けをしようかと考えていました。でも話をそらすことしかできませんでした。だから報告会では職員に「帰宅願望の強い人への対応」を質問しました。そしたら「何もできない。聞いてあげるだけ。それだけで楽になるから」みんな接し方はわからないと。正解がないことだとは思う。だけど大切なのは利用者さんの気持ちを受けとめ、声をかけることなのだと学びました。

今の自分がやるべき事の発見

11月4日に峡南地区の消防大会があり施設代表で出場した結果、準優勝になりました。いつ起こるかわからない災害に対してできることは防災意識を高めることと思い、毎月の防災訓練も気合いが入りました。これで、みんなのモチベーションも上がればいいなと思っています。

福島職員のなかには家を流された人も多くいました。家族を助けに行き、車2台で戻ってくる途中で後続車のおばあちゃんだけ津波に巻き込まれたという人もいました。そんな大変な経験をしながら、人前では常に笑顔で元気。利用者さんや僕らにも優しい。そんな“前向きさ”がみんなを引っ張っている感じがしました。福島に行き、学ぶことは多かったです。



普通であることの幸せをかみしめています。

特別養護老人ホーム 小山荘(笛吹市)

なか むら かず お
仲村 和雄さん

応援期間／平成25年7月30日～8月14日

若い職員たちと働いて

入所21年目ですが、他の施設で働くという機会がなく、今回が初めての経験でした。不安もありましたが、あまり気負いせずに出発しました。現地には若い方がいないものと思って行ったら、みんな私より若くて驚きました。一番若い職員は18歳の女性。そんな子が生水も飲めないような環境で生活して働くことは、普通だったらない。もし自分の子どもが同じように働くとしたら素直に喜べない。単身赴任の男性職員もいましたが家族と一緒に生活したいのだと思います。でも、みんなあえて選んで働いていて、その狭間の中で気持ちの葛藤があるのを感じました。ごく当たり前に水道水が飲める。家に帰ったら家族がいる。普通の生活ができる幸せを改めて感じました。

流した涙とともに思うこと

趣味が釣りなので休日に海岸へ車を走らせました。でも、その時に見た光景は、津波で一階部分が流された家々。原発20km圏内の家は壊れていないのに草が伸び、圏外に持ち出せないゴミが家の前に積んである。玄関先に放置された三輪車を見ては「助かったのかな」と思ったり、持っていたカメラで撮影しながら「二週間で自分に何ができるか」と思ったら涙が溢れました。縁あって福島に行くことができ、現場を見て、改めて悲惨さを感じ、2年半経っても変わらない現状に憤りを覚えました。帰ってから地震があっても心配で、頭には常に福島がある感じです。

写真とは違う、ぜひ生の現場を見て欲しい

一生に一度あるかないかの機会だったので行くことができ良かった。個人的にはボランティアとして、また行きたいと思います。そして機会があれば家族を連れて行きたいです。写真を見せて話をすることはできますが、一度でいいから現場を見て欲しいです。現場の状況を見て自分なりに感じるものは、きっとあるはずです。



自分自身と向き合い、 わかり合える仲間ができました。

特別養護老人ホーム 白根聖明園(南アルプス市)

の むら じゅん こ

野村 順子さん

応援期間/平成25年9月20日～10月4日

引退覚悟の出発

実は私、福島から帰ったら仕事を引退しようと思っていました。自分の体力の限界を感じ始めていて、いつ潮時かを毎年考え、最後に福祉の仕事で何かできることはないかと迷っている時に福島行きの話があり、即答で「行かせて欲しい」とお願いしました。自分に喝を入れ、もう一度、福祉の勉強のために行こうと決めました。

出発前も後も、とにかく体調管理は万全にしました。私ができるのは利用者さんへの言葉掛けと笑顔しかないのです。いつもの私でいようと思いつく構えで行きました。

福島で見て、聞いて、感じたこと

休日に施設長が車で20km圏内まで連れて行ってくれました。ガレキの山や壊れたままの家。畑の中に放置された車。でも、ここの衝撃的な映像は、いくら口で説明してもしきれぬものではありません。私が「何か伝えなければいけない義務があると思っていましたが、この広い範囲での痛ましい状況はどこまで伝えられるかわからない」と言うと、施設長は「みんなそうですよ。時間とともに記憶も薄れます。それは怖いけど、いくら求めても無理だと思います。忘れてもいいから、思ったことを伝えるだけで充分です」と言ってくれました。最近は日頃の業務に追われ、つい忘れてしまう。それでも思い出した時には一人でもいいから伝えようと思っています。

仮設住宅で増える認知症

福島の被害が大きかった所では今、お年寄りが多い。若い子は生活などの問題で帰って来れない人が多い。残るは老人ホームの利用者さんと職員。畑も田んぼも放射能で作物が作れなくなりました。仮設に入って、賠償金がありました。働けない環境で何もすることがなく、認知症が進んでしまうお年寄りが多く、応援に行った施設は定員オーバーで受け入れをしていました。

若者の揺れる気持ち

若い子はみんな出て行ってしまうなか、施設には若い職員もいました。「何故、帰って来たの?」と聞くと「友達みんな出て行った。自分でもどうして戻ったかわからない。多分、ここには自分の生まれ育った家と家族がいるからだけど、自分の将来を考えると、ここにはいけないと思う」と。明確な答えは出せないでいます。

福島と山梨をつなぐ架け橋

福島の職員から「もし山梨が被災したときは応援に行きます。私たちの施設で受け入れもします」と言われて、すごく嬉しかったですね。施設で働いている同士がわかり合えること、みんなとつながることができて良かったです。

私の希望は、今後も若い職員が福島を訪れ、利用者さんに対し自分に何ができるかを考え実行してもらいたい。そして自分で気づいたことを自分なりの言葉で伝えていって欲しいです。

非常時・災害時の必需品を確認しましょう。



いつも持っているもの

- 中断できない薬の予備
- 携帯電話
- 笛・ブザー
- 貴重品など

食

- 飲料水
- 保存食
- マグカップ
- 特別食
- ラップ



衣類

- 下着
- 防寒着
- 雨具
- 軍手
- スリッパ



衛生用品

- タオル
- マスク
- ティッシュ・ウェットタオル
- 携帯用トイレ
- オムツ・生理用品



医薬品

- 普段飲んでいる薬
- 常備薬
(風邪薬、胃腸薬など)
- 救急セット



生活用品

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 予備の電池
- カイロ
- 携帯電話などの充電器



貴重品など

- 現金
- 預金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 保険証(コピー)
- お薬手帳
- 障害者手帳



※その他にも、自分に必要なものがないかを、確認しましょう。 ※使用期限のあるものは定期的に確認しましょう。
 ※介助犬、盲導犬などのパートナーに必要な物も忘れずに。

やまなし福祉救援活動フォーラムを開催します

県社協では、「災害にも強いまちづくり」を目指して、平成18年度から防災・災害救援活動に取り組んでいる関係者を対象に、それぞれの地域における今後の活動に向けての方向付けと情報の共有化、防災意識の高揚を図るためフォーラムを開催しています。

本年度は「災害弱者を守るために地域でできること」をテーマに次のとおり開催します。皆様の参加をお待ちしています。

- 日時…平成26年2月28日(金)午後1時30分～
- 会場…甲府市総合市民会館 芸術ホール
- 講師…岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 参事兼部長 根田 秋雄 氏
ボランティア・市民活動センター所長
- 定員…500名(定員になり次第、締め切らせていただきます)
- お問い合わせ先…県社協 福祉振興課 地域福祉推進担当 ☎055-254-8610

10月1日(火)～3日(木)の3日間、 「福祉用具の日」が開催さ

oods

福祉用具
の日

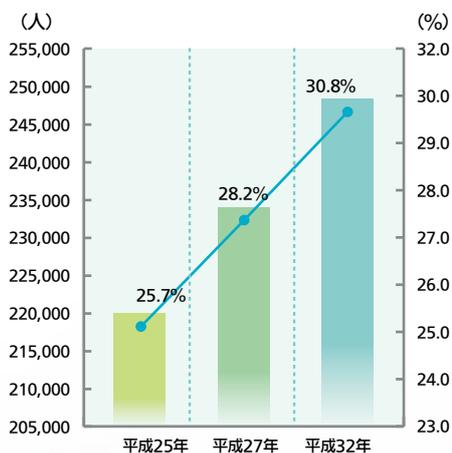
あると便利なグッズたち

多くの方々に福祉用具を知っていただき、社会全体で福祉用具を身近に感じてもらうことを目的とした福祉用具の展示会及び講演会を、山梨県立介護実習普及センター主催で山梨県立図書館イベントスペースにて開催しました。

山梨県の高齢化率

山梨県の高齢化率は、平成25年に25.7%と約4人に1人が高齢者(65歳以上)となっています。

7年後の平成32年には、30.8%と約3人に1人が高齢者となる予測がされており、高齢者の日常生活を支える福祉用具の必要性はますます高まっていくものと考えられています。



出典：山梨県『平成25年度高齢者福祉基礎調査概要』より図表作成



展示会の
ようす

参加者の声

いろいろなものを見て実際に触れ、体験できたこと、説明も丁寧に頂き、とても勉強になりました。

最新の福祉用具を見学させて頂き大変参考になりました。

いろいろな福祉用具を見たり、専門的なアドバイスを気軽に聞くことができ、たのしく福祉用具を知ることができました。普段見ることができない競技用のものも見られて感激しました。

れました。

説明会の ようす

期間中は、子どもからお年寄りまで幅広い年代層の方々が登場し、車いすやベッドなどの福祉用具を見て、触れて、体験しました。また、福祉用具の使い方に関する説明会、福祉用具の活用や開発に関わる第一人者を招いた講演会も開催し、多くの方々が福祉用具に関する最新情報を学びました。

講演会の ようす

実演をまじえた説明で身近な悩みを解決するのにとても参考になりました。

基礎的な部分を丁寧にご指導頂き、大変勉強になりました。

参加者の声

今まで、私が施設で行っている介助は誤っている部分が多々あったということがわかり、改善していきたいと考えました。

普段から福祉用具を使うことで、自分や利用者の負担を軽くできるということがわかりました。

参加者の声

福祉用具の活用が、本人の自立につながると聴いて、とても関心をもちました。

介護予防・認知症予防講座 笑いヨガ

山梨県立介護実習普及センターでは、平成25年10月7日に、ラフターヨガティーチャーの深澤ゆきこさんによる『笑いヨガ講座』を行いました。申し込みをお断りするほど参加希望者が多く、興味を持たれた方が多かったです。

▼ 笑いヨガ：お腹から声を出し他の人と目を合わせながら笑い合います

たくさん笑って疲れたけれど楽しかったです。笑うことがこんなにもエネルギーを使っていることに驚きました。

参加者の声

これから家族の中で笑いを取り入れていきたい。笑ってステキです。久しく忘れていました。

不思議と本気で笑えますね。来年もぜひ開催して欲しいです。



～ 笑いヨガ ～
Laughter Yoga



笑いヨガは、1995年にインドの医師により創案された「笑いの体操」と「ヨガの呼吸法」を組み合わせた有酸素運動のひとつの健康法です。今では世界各国に広まり、日本でも各地で指導者が生まれ活動されています。みんなが笑うことですぐに笑いが伝染し、誰でも無理なく楽しく笑いの健康効果を得ることができます。

こんな方にオススメです

- 最近元気が出ない
 - 悩みやストレスを抱えている人、抱えやすい人
 - 肩こりや頭痛持ち、便秘気味の人
 - 運動が苦手な人、身体が硬い人
 - なかなか笑うことができない人 など
- 子どもから高齢の方まで誰でも参加できます。

下記の持病・症状のある方は 事前に医師との相談が必要です

- △ 出血があるとき
- △ 高血圧
- △ ヘルニア(腹壁やそけいなど)
- △ 長引く咳
- △ てんかん
- △ 重篤な頭痛
- △ 重篤な心臓病 など

日常生活の中で自然な笑いは、1日の内に数秒の短い笑いが何度かあるくらいという方が多いと思います。笑いが心身に効果を現すためには10～15分の継続した、声を出し横隔膜をしっかり動かす笑いが効果が高いということです。この笑いで脳や身体への血流が良くなり、免疫力を高め、血糖コントロールを良好にしたり、認知症予防にもつながるようです。また、作り笑いでも笑いの健康効果が得られるともわれています。県内でも、特に介護の現場で素敵な笑顔と笑い声であふれ、健康づくりの一助になると良いですね。

講師から一言

「今回参加された方々は、全員が初めてとは思えないほど積極的に参加していただき有意義な時間を過ごすことができました。多くの方に、身体や心の健康のためにも、少しでも良いので生活の中に笑いを取り入れていただきたいです」

ラフターヨガティーチャー
深澤ゆきこさん

▲ 笑いヨガの前に、準備体操をします



▲ 笑い合う人達とミニゲームをして、ウォームアップ!



第26回

全国健康福祉祭

こうち大会

高齢者を中心にスポーツや文化を通じて相互の交流を深め、健康の増進や生きがいづくりを目指す「第26回全国健康福祉祭こうち大会（ねんりんピックよさこい高知2013）」が、10月26日から29日まで、高知県で開かれました。

山梨県からは芦澤敏久団長（県社会福祉協議会会長）ら148名が参加しました。開会式当日は、台風一過の秋晴れのもと、旗手の坂野龍英選手（マラソン）を先頭に、風林火山の手旗を高々と掲げ、地元高知県の長浜小学校の児童とともに元気に入場行進しました。

県勢は20種目に参加し、ソフトボールと水泳で優勝、囲碁で全勝賞、サッカーとマラソンで2位、その他の種目でも優秀賞を受賞するなど健闘しました。



第26回 全国健康福祉祭こうち大会
山梨県勢の主な成績

優勝	ソフトボール	甲府シニア伊勢
優勝	水泳（80歳以上 男子25m 自由形）	鈴木 桂（甲州市 82歳）
優勝	水泳（80歳以上 男子50m 自由形）	鈴木 桂（甲州市 82歳）
優勝	水泳（80歳以上 男子25m 平泳ぎ）	梶原 勤（山梨市 80歳）
優勝	水泳（80歳以上 男子50m 平泳ぎ）	梶原 勤（山梨市 80歳）
全勝賞	囲碁（個人戦 かつお節ブロック）	内藤 富明（南アルプス市 74歳）
全勝賞	囲碁（個人戦 しょうがブロック）	矢崎 亮一（山梨市 79歳）
準優勝	サッカー（1ブロック）	山梨シニアサッカークラブ
準優勝	水泳（70歳～74歳 男子25m 背泳ぎ）	水上 光生（山梨市 74歳）
準優勝	水泳（80歳以上 女子50m 自由形）	横森 よしほ（韮崎市 80歳）
第2位	マラソン（70歳未満 女子10km）	名取 和子（南アルプス市 63歳）
第3位	水泳（80歳以上 女子25m バタフライ）	横森 よしほ（韮崎市 80歳）
第3位	水泳（65歳～69歳 女子25m 自由形）	藤澤 由記子（韮崎市 65歳）
優秀賞	ゴルフ（個人戦 65歳～69歳 第4位）	中山 聖来（甲斐市 67歳）
優秀賞	マラソン（70歳未満 女子3km 第5位）	高野 章子（昭和三町 61歳）
優秀賞	健康マージャン（個人戦 室戸ブロック 第5位）	青木 精（中央市 80歳）
優秀賞	囲碁（団体戦 第7位）	山梨県南アルプス市チーム
優秀賞	ペタンク（ベスト8）	甲府陣場
優秀賞	グラウンド・ゴルフ（女性の部 第9位）	斉藤 ひろみ（甲府市 71歳）
優秀賞	ゲートボール（ベスト16）	甲府菊水
最高齢者賞	美術展（書の部）	長坂 豊（大月市 88歳）

ご参加ください。
福祉・介護の仕事に関心のある方、

山梨県福祉人材センターは2月5日かいてらす（山梨県地場産業センター）で「福祉の就職総合フェア」を開催します。福祉・介護関係の仕事に就きたい人や関心のある方など、どなたでも参加することができます。特に今後の進路についてお考えの学生や将来的に福祉・介護関係の仕事に就きたい人の情報収集のための参加や転職・再就職を検討している方も歓迎

迎しますので、是非ご参加ください。

求職者にとっては、具体的な仕事の内容や役割、雇用条件、働く環境など、さまざまな疑問に答えてもらうチャンスです。

また、資格取得方法など、各分野の専門相談に応じるコーナー、求職登録の申し込みも受け付けています。

福祉の就職総合フェア **冬** 2月5日(水)開催 in やまなし



主なコーナー

- 合同面接コーナー… 職員採用計画や求人募集のある事業所の人事担当者と個別に面談ができます。
- 種別施設相談コーナー
- ハローワーク相談コーナー
- 福祉の仕事なんでも相談コーナー
- 関係機関相談コーナー
- 福祉人材センター登録コーナー

- 日 時…平成26年2月5日(水) 13時～16時(受付12時30分～15時30分)
- 会 場…かいてらす(山梨県地場産業センター) 甲府市東光寺3-13-25
- 参加費…無料
- 参加事業所…約50事業所が参加予定*
- アクセス…
 - お車でお越しの場合…
 - 中央道一宮・御坂ICより車で20分
 - 中央道甲府昭和ICより車で25分
 - ※無料駐車場(大型バス10台、普通車290台)
 - 電車でお越しの場合…
 - JR中央線甲府駅(北口)からタクシーで10分
 - JR中央線酒折駅から徒歩15分
 - JR身延線善光寺駅から徒歩15分
 - バスでお越しの場合…
 - 甲府駅北口2番乗り場より、県立科学館行きバスにて約10分

※参加事業所については、山梨県社会福祉協議会ホームページに1月中旬頃から随時掲載していく予定です。

「地域密着型・小規模就職相談会」のお知らせ

地域を限定して福祉の仕事を探したいという方々に、地域の求人事業所の人事担当者と直接情報交換していただける相談会を定期的に開催しています。今回は、『峡南・南アルプスエリア』の相談会を開催します。

- 会 場…山梨県福祉プラザ 4階会議室(甲府市北新一丁目2-12)
- 開催日…平成26年2月4日(火) 13時30分～16時(受付13時～)
- その他…参加無料、申込不要、履歴書・職務経歴書不要

■ お問い合わせは…山梨県福祉人材センター ☎055-254-8654

平成26年度 介護福祉士等修学生 募集について

介護福祉士又は社会福祉士(以下「介護福祉士等」という。)を養成する施設(以下「養成施設等」という。)に在学する方に修学資金をお貸しすることにより、卒業後に山梨県内において介護福祉士等の業務に従事していただくことを目的としています。

貸付額	月 額	50,000円以内
	入学準備金	200,000円以内(初回月に加算)
	就職準備金	200,000円以内(最終月に加算)
	生活費加算	月額生活扶助基準の居宅(第1類)に掲げる額以内 ※家庭の経済状況が生活保護受給世帯の方又はこれに準ずる方が対象です。

- 貸付金の申請… 修学資金の貸付を希望する方は、在学する養成施設等に申請を行ってください。(当会への直接申請は受け付けておりません。) 提出期限等は、各養成施設等へお尋ねください。

介護福祉士等修学資金貸付事業の見直しの概要について(平成25年度) 生活保護世帯等の子どもの修学支援

貧困が親から子へ連鎖する「貧困の連鎖」を断ち切り生活の安定に資する資格の取得を支援するため、生活保護世帯等の子どもが高校卒業後に介護福祉士等の養成施設等への進学を希望する場合に、通常の貸付内容(修学費用、入学・就職準備金)に加えて、新たに生活費の一部を含めて貸し付けます(生活費加算)。

- 貸付対象者… 次のいずれかに該当する方

- ① 生活保護を受けている世帯から介護福祉士等の養成施設等に就学する方
- ② ①以外の方で、これに準ずる経済状況にあるものとして本会が必要と認める方
 - 介護福祉士等の養成施設等に実務者養成施設は含みません。
 - 「これに準ずる経済状況にあるもの」には、市町村民税非課税、市町村民税の減免、国民年金の掛金の減免、国民健康保険料の保険料の減免または徴収の猶予の措置を受けている世帯が例示として挙げられます。

- 貸付額… 在学する期間の生活費の一部として、1月あたり貸付対象者の貸付申請時の居住地の生活扶助基準の居宅(第1類)に掲げる額の内、貸付対象者の年齢に対応する年齢区分の額に相当する額以内を加算することができます。
 - 修学費用の貸付を受けず、生活費加算のみの貸付はできません。
 - 生活費加算と生活保護の支給は同時に受けることはできません。

教員免許特例法による『介護等体験』社会福祉施設等受入調整

平成10年4月より「小学校及び中学校の教諭の普通免許授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」の施行により、小・中学校の教諭免許状取得希望者に対し、社会福祉施設等において『介護等体験』が義務付けられました。

山梨県社会福祉協議会では、教諭免許状取得希望者に対し、山梨県内の社会福祉施設等における受入調整事業を行っています。ご協力いただける県内の社会福祉施設等、希望される各大学短期大学は申し込み期限までお願いいたします。

- 申し込み期限(予定)… ● 社会福祉施設等：2月下旬 ● 各大学短期大学：4月下旬

※要綱・様式は次のアドレスよりダウンロードできます。(http://www.y-fukushi.or.jp/new/2013_01/0122_1.html)



イベント・ご案内

平成26年度

ともしび基金助成事業の
募集が始まります。

山梨ともしび基金は、県民の皆様からの善意の寄付金によって設立、運営されています。山梨県内において社会福祉にかかる事業を行うボランティア団体等、民間福祉団体の事業経費の一部を支援することにより、民間の社会福祉活動の促進・充実を図り、県民福祉の増進を行っています。

応募について

- 募集期間…平成26年
1月6日(月)～
2月7日(金)
当日消印有効

助成を希望する場合は、必ず「助成事業の手引き」を読み、期日までに所定の申込書を提出してください。「助成事業の手引き」は、本会、市町村社会福祉協議会、山梨県ボランティア協会にあります。

また、本会ホームページ(<http://www.y-fukushi.or.jp/>)お知らせボードの「山梨ともしび基金助成事業について」からダウンロードできます。

- お問い合わせ先…
福祉振興課 施設・団体支援室
☎ 055-254-8610

報告・ご寄附

赤い羽根共同募金運動

街頭募金のご協力
ありがとうございました。

山梨県社会福祉協議会では、10月1日～3日の3日間、「赤い羽根共同募金運動 街頭募金」を行いました。期間中は延べ42施設・団体から162名の方々にご協力をいただき、246,632円もの募金が集まりました。

なお、ご協力いただいた募金は、山梨県共同募金会にお渡ししました。皆様のおたたかいお気持ちをありがとうございました。

善意をありがとう

寄付金の贈呈

山梨ともしび基金では、山梨県調理師会(小林一吉会長)様からご寄付をいただきました。

寄付金は、障害者・児童・高齢者福祉やボランティアの各分野で普及啓発、養育訓練、調査研究などの事業や活動を行っている団体への助成基金として活用させていただきます。

ありがとうございました。

善意をありがとう

車いす用体重計、福祉巡回車の贈呈

このたび山梨県生命保険協会(矢作 勉会長)様から、敷島緑陽園に車いす用体重計、また甲州市社会福祉協議会および本会に福祉巡回車各1台が寄贈され、去る11月28日、山梨県福祉プラザにおいて贈呈式を行いました。

同協会は県内の16社で構成され、各社の職員から寄せられた浄財をもとに社会貢献活動の推進を図っています。

本県ではこれまでに車いす26台、福祉巡回車41台が贈られました。

車いす用体重計は施設で利用者の生活に、また福祉巡回車は一人暮らし高齢者などの訪問活動に活用させていただきます。

ありがとうございました。



山梨県生命保険協会 矢作 勉会長(左)
甲州市社協 中村 功会長(中央)
山梨県生命保険協会 田中 晋介副会長(右)

貸し出し
図書紹介

『絵で見てやれる新しい家庭介護のすべて ～介護保険も一目でわかる～』



この本は、介護の実際、食事・移動・排泄・清潔のお世話や介護保険の利用方法を、写真やイラスト・図を交えて具体的に紹介した分かりやすい1冊です。また、感染症や認知症をはじめ、在宅介護に必要な医療の基礎知識なども学べます。介護従事初心者の方々にも役立つ内容となっています。

■著者:西原 修造氏

■発行所:株式会社 日本医療企画

〒101-0033 東京都千代田区神田岩本町4-14 神田平成ビル

URL <http://www.jmp.co.jp/> TEL 03-3256-7495

この書籍は、介護実習普及センターで貸し出しを行っています。この他、介護・看護・福祉についての本268冊、ビデオ・DVD188本の貸し出しをしています。詳しくは県立介護実習普及センターにお問い合わせください。 ☎055-254-8680